

ベトナム・カンボジアへのスタディツアー			
年 月 日	平成 26 年 3 月 2 日 ～3 月 11 日	場所	ホーチミン・ポノン ペン・シェムリアッ プ

概 要

南北に分断して戦ったベトナム戦争、長く続いたポルポト時代とこれに続く内戦がもたらした影響と現状、文化の復興と人の尊厳などについて学ぶスタディツアーを行った。特に、日本から国際支援に入っている2つの団体の活動について学び、王立プノンペン大学での日本語学科の学生との交流、ドリーム小学校（校舎と図書館建築を日本が行っている）での交流を行った。

今回訪問したのは、カンボジアで国際支援に入っているCWA（Community Work for Asia）とSVA（シャンティ国際ボランティア会）である。カンボジアでは2-3の主要都市を除き、また水道が完備されておらず、電気もきていない村が多い。首都プノンペン等の水道は日本からのODAで整備されたという経緯がある。農業生産物を製品として仕上げる技術がなく（たとえば、コメを精米する技術に欠けるため、もみ殻がついたものをベトナムやタイに低価格で売り、精米された高いコメを買っている）、近隣国に出稼ぎにでかける男性や若者が多く、村が荒廃する傾向にある。

農産物を輸出できるレベルに高めるため、CWAはシェムリアップから3時間の村で従来からつくられていたカシューナッツの加工と輸出に取り組み、農民が自活できるような活動支援を行っている。SVAは文化によるカンボジア復興を掲げ、カンボジアの4都市において子どもに勉強をする機会を与えるための様々な活動を展開している。

王立カンボジア大学での交流プログラムは、まず両大学生から大学生活の紹介を行い、小グループに分かれてのディスカッションとなった。ここは日本語能力検定試験を年2回行っており、カンボジアの国中から試験を受けにくる場所となっている。日本ビジネス・スタディーセンターがあり、東京大学、京都大学、名古屋大学等への留学促進を行っている。最後は大学生同士の踊りの交換となり、本学からはよさこいを披露し、カンボジアの学生たちは伝統的な踊りを教えてくれた。

ドリーム小学校では教員・PTAに迎えられ、1200名の小学生のうち400名が参加する交流会となった。交流会では、双方の挨拶、歓迎の歌の交換、図書館活動の視察、長縄跳びでの子どもたちとの交流、紙飛行機づくり、踊りの交換、生徒の家へのホームビジットなどを行った。

その他の研修としては、ポルポト時代の経験を当事者から聞く会、ポルポト時代の刑務所、キリングフィールド、地雷博物館等の見学を行い、説明を受けた。また、ベトナムでは南北の境界線にあったトンネル（クチ）に行き、トンネル内に食堂や学校、トイレ等をつくって生活し、ゲリラ戦を行っていた場所について説明を受けた。

学生たちは「地域実習Ⅰ」を履修して参加し、事前学習でベトナム・カンボジアについて学び、研修中は、次のことについて実習日誌にまとめていった。特に、カンボジアではポルポト時代のことを教科書で教えておらず、若者がこの厳しい時代とその後の内戦、復

興への道程について知らないままとなっている点が問題であるとされ始めている。このことを、日本の近代史にも重ねて考えることを学生たちに問うた。

- ① 事前学習で学んだことで、実体験をしてみて、得たことは何か。
- ② 事前学習ではわからなかったことで、新たに学んだことは何か。
- ③ 事前準備として不足していたことは何か。
- ④ 事後学習として調べなければならないことは何か。
- ⑤ 日本の社会と比べて（戦後復興など）、考えるべき点は何か。

事後学習として、新年度の「フィールドワーク実践論」（平成 26 年 4 月 10 日）で後輩学生に対して報告を行い、レポート提出等を課題とした。



ポルポト時代のトゥールスレン刑務所（同じような場所が全土に 167 箇所あった）。



CWA との研修



講師の Mr Chhim Chhouden



プノンペンのスラムのゴミ山
ゴミを拾ってお金にすることも



スラムの中での移動図書館活動



王立プノンペン大学での「日本の大学教育」発表



グループディスカッション

小学校訪問で出迎えてくださる校長・PTA





小学生の家へホームビジット